キリスト教保育

2023年11月1日発行（毎月1回1日発行）第656号

年主題
ともにつむぎだす
～希望の中で～

巻頭言
神さまから預けられたタラントン
笹野信治

礼拝のお話
星野　牧

11
2023 NOV.

わたしは絶えず主に相対(あいたい)しています。

新共同訳聖書・詩編16：8

今月の聖書の言葉の「相対(あいたい)」するは、「互いに向かい合う」という意味です。神と互いに向かい合っているというあり方を指していると思うのです。口語訳聖書では、「わたしは常に主をわたしの前に置く」となっています。原文から考えても、「置く、据える、（ある状態に）させる」というのが伝統的な訳文のようです。しかし、神を自分の前に置くというあり方は、いかにも人間の理屈であって、人間の分際をこえていると思うのです。原文の意味を希薄にすると言われるかもしれませんが、むしろ「相対(あいたい)」していると表現するのが穏当だという感じがします。

私たちが「真の対象」として、「主に相対(あいたい)する」というあり方の大切さは、絶えず主と相対(あいたい)し、信じることも愛することも一切において、自分が神の前に置かれていることに気付くということです。

エーリッヒ・フロム著の『生きるということ』（原題は『To have or To Be ？』）は、生きるあり方を「持つ（所有する）あり方」と「ある（存在する）あり方」に区別し、今の時代は、何かを「所有」しようとする生き方が、ただそこに「ある」生き方をこえているために、問題が生じていると指摘しています。だからこそ、「主と相対(あいたい)する」あり方、つまり神の前に自分を置き、ありのままで生かされていることの意味をとらえ直していかなければならないのです。

今月の聖書の言葉は、使徒言行録2:25に引用されています。本来は、信心深い詩人の賛歌ではありましたが、ペトロの演説の中では、この言葉は新しい意味を帯びています。ここでは「主」は、イエス・キリストです。ペテロは、「わたしはいつも目の前に主イエス・キリストを見ていた」と言っているわけです。主イエスとの出会い、祈りにおける交わりの中から、主イエスの絶えざる生命の交わりが生まれてきました。

詩編の詩人やペトロと同様に、私たちも、主が傍らにおられる限り、私は揺るがないのです。困難の中にあっては、主の助けを信じ、自己の決断にあたっては、主の助言と導きを信じることが、私たちにも許されています。

私たち保育者は、「主に相対(あいたい)し」また、子どもたちとも、互いに向き合うことのできる生き方をしたいものです。

（宗宮　進・執筆　当時・日本キリスト教団津山教会牧師　田町保育園園長）

1989年『キリスト教保育』誌 11月号より

一部省略、要約してあります。

『生きるということ 新装版』エーリッヒ・フロム（著）佐野 哲郎（訳）紀伊國屋書店　2020年

キリスト教保育

第656号11月号

年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～

幼子とともにキリストへ　2

目次　3

〈巻頭言〉

神さまから預けられたタラントン　笹野信治　4

〈論説〉「おもしろさの主体」として

発達する乳幼児（2）　加藤繁美　6

〈小論〉今、急増している新種の健康障害

〝環境過敏症〟とは？　北條祥子　14

図書紹介　安部一徳　麻生浩美　25

聖書に聞く・お話　山本香織　26

【カリキュラム】

11月　月のねがい表　29

心にとめて　富田恵美子　30

実践報告　愛光みのり保育園　32

実践からの学び　布村志保　37

心にとめて　清水真理　38

実践報告　あびこひかりこども園　40

実践からの学び　眞鍋麻衣　44

私たちの園では　八尋　孝一　45

〈連載〉子どもの健康　黒田恵美子　46

〈連載〉キリスト教の行事　認定こども園しののめ　48

絵本のとびら　宮越清香　51

子どもと賛美するために　52

礼拝のお話　星野牧　53

目福口福耳福　緒方晴樹　63

風　伊藤みどり　編集子　佐渡いずみ　64

連盟だより　65

表紙絵　田中槇子

カット　中畝治子　こだいみのり　松成真理子　金井ユリ